

ガーナでそろばんプロジェクト 75 号(2018年 6月 11日)

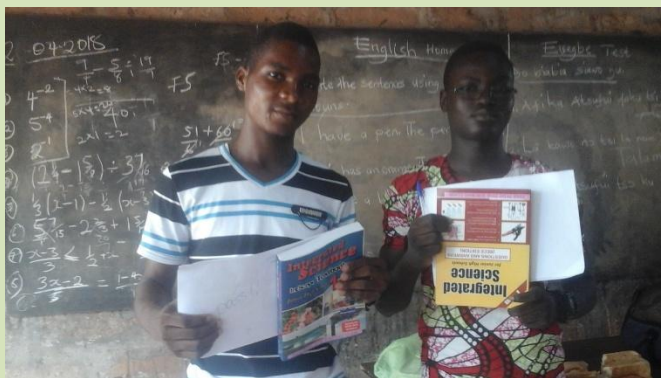
★★ 日進月歩するなかでの”そろばんの計算方法”への想い ★★

お月様の形を見て、その年のラマダンの時期を決めるムスリ教徒。今年は、五月十七日よりラマダンが始まりました。お月様の形を見て決めるので、毎年ラマダンの時期が違います。一つ言えるのは、私はこのラマダン時期という言葉や実際にラマダンによる影響を受けるようになって気づいたのが、毎年ラマダンが早くなってきたという事です。日本のように予め国民の祝日が決まっているものもあれば、お月様の形で祭事を決める文化は、とても良いことだなと思っています。アフィフェ村の大半は熱心なキリスト教徒なので、ラマダンの断食と関係ありませんが、約一か月近くあったラマダンももう間もなく終了となります。

二週間か月、暗算の強化練習に取り組んできたギディオオンとコンスタントがついに検定に合格しました。そして高校受験に役立つ参考書を手にすることが出来ました。とっても嬉しいことです。私がなぜ?どうして?ここまで厳しい練習の後、検定制度に拘るのか?それは、やはり自分の中にある揺るぎない“そろばん”に対する想いがあるからなのです。コを使った技術は急速に発展して、時代の流れに乗れず、新しく出てきたコ関連用語は全く分からないですが、二週間ガーナに暮らしている中で感じるのが、アプリをダウンロードすれば使える Google、やデリバリーシステムなど、恐らく実家が埼玉にある私の埼玉暮らしよりもガーナの首都アクラの方が都会だと感じる事が多くあるのです。村に於いては、先の報告書で触れたように、中学生にもなれば、自分の携帯を持つようになり、なかにはアプリ機能が豊富についているタッチパネル式のもので、子どもには十分すぎるほど機能性に優れている携帯を持っている生徒もいて驚きを隠せないのが本音です。ひよっとしたら、そろばんの計算方法はコや携帯のアプリを使うことにより必要ないのかもしれない。もっと他の事を教える

教室をやるのが子どもたちに必要なことなのかもしれない。なにも練習プリントの枚数にこだわる必要なんてない...と思われるかもしれませんが、私が揺るがない想いは、わかった時の嬉しさ、体験した子どもにしか感じることの出来ない“出来るようになった喜び”を知って欲しいという願いなのです。それらに付随して、継続してやることのないせつさがあるのだと思います。練習プリントの枚数やその他の練習方法で絶対的な自分の想いを押し通すあまり、残念ながら「褒美までいき届かなかった生徒も過去にいますが、外国人の支援が入っているからと、なんでも簡単に手に入ると思われたくないというのも一理あるのも否めません。何よりも、やはり“そろばんの計算方法はどんなに技術が発展してもとても大切な計算技術”だというのが一番の理由です。たくさん練習をすれば、そろばん脳になり暗算で計算が出来るようになります。どんなに文明が進んでも“そろばんの計算方法”に勝るものはないと思っています。

報告 TOSHIO



協賛

トモエそろばん様